

知っていますか？

岩美町の偉人 さわだれんぞう 澤田廉三 氏



こんな人物

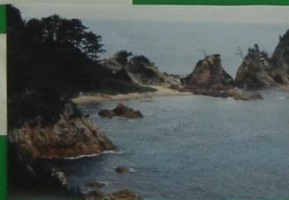
(明治21年～昭和45年)

岩美町浦富出身の外交官。東京大学仏法科卒業。
駐仙大使館書記官から始まり、ニューヨーク総領事、
外務次官、駐ビルマ大使などを務めた。第二次大戦後は
国際連合初代日本大使となり日本国連加盟に尽力した。
妻である美喜は三笠財閥岩崎家の長女。戦後昭和22年
神奈川県大磯に、エリザベス・サンダースホームを設立し、
敗戦後の戦争孤児の養育にあたった。
岩美町熊井ヶ浜に別荘があって夏はホームの子供たちは
岩美を訪れ海水浴をした。



故郷への愛着

外交官として、各国で活躍した廉三氏はどこにいても
ふるさと浦富を忘れず、「愛国は愛郷より」と故郷を愛する心
を忘れなかった。「浦富小報」を作曲したり、書を書く際には
署名を桐山城からとって「桐山」印をよむ時は「沙磧」と
いう号を利用して、多くの重宝を残した。



ふるさとへの 三愛碑設立

岩美町内には、澤田廉三氏が建立と顕彰を働きかけてできた
「人類愛」、「祖国愛」、「母子愛」の碑がたっています。
ちなみに「祖国愛」の碑は岩美高のすぐ裏の山道竹城山ろく
にあります！行ったことありますか？



「人類愛」

明治38年日露戦争の日本海海戦が終わり3週間後の6月
17日に鴨ヶ磯海岸に漂着したロシア軍将士の遺体を、田後
の人々が
「敵国人といえども同じ佛さんではないか」と共に頼んで
二つの戒名を授け、礼をつくして葬った。田後の人々のあ
たたい心を記念して昭和37年澤田廉三氏が建立。



「祖国愛」

寛政6年、浦富に生まれた俳仙仙英禅師は倉吉で若い通修行
を積んだ。鳥取の景福寺にいた48歳の時伊直弟の招きで
彦根の清涼寺に移り、直弟の精神的支えとなった。開国・攘
夷で国が揺れ動く中、国、郷土への想いを強く持ち近代日本
の礎を造るに至った功績をたたえ、昭和37年に廉三氏が
碑を建てた。

「母子愛」

昔、曹洞宗の興隆につくし、中興の祖とおおがれた、浦富出
身の通仙禅師という人がいた。
長者の娘であった彼の母親は、みごもったままになってし
まった。墓の中で赤ちゃんを産み、近所の船を売る店から水
あめを買い、食べさせた。香林寺門前の墓の中から赤ちゃん
の泣き声がするのを通仙中の僧が聞き、墓をあけると赤ちゃん
がでてきた。僧は仏の弟子にしたいと引き取り、赤ちゃん
は後に通仙禅師となった。廉三氏は母の愛の力をたたえ、碑
の建立につくしたが完成を見ず他界。

